

連日の雨が心配されたが、当日は、ほぼ雨に降られることなく、ランチタイムのお店の中で少し降った様子で、また「反省会」の間に本降りのようにですが、終日、雨には打たれませんでした。さすがに晴男の異名を持つ小島さんです。そこで一句「春の雨散策会の晴れをとこ」

定刻10:01JR武蔵境駅から9名のご参加をいただき出発。京王中河原駅前でもーティング後出発。大通りになった鎌倉街道を西南方向へ向かい、多摩川を渡りしばらく歩くと脇道へ入る。これが旧鎌倉街道である。元弘3年(1333)北条泰家の幕府軍と新田義貞率いる反幕府軍による古戦場で敗走した鎌倉幕府軍は、6日後に足利幕府へと鎌倉の時代が終わるきっかけとなった戦場である。

次は、地形的に谷のようになった底を鎌倉街道が通り、高台に霧が関南木戸柵跡に着く。関所の南木戸の柵跡で熊野神社の境内となっている。

多摩市役所を過ぎたところで、ピラピラと小雨を感じたところでランチタイム。「からやま」と言うお店で唐揚げを堪能した皆さんは、夜の反省会のお店をいつものミライザカを敬遠することになろうとは、この時は思ってもいなかったでしょう。そして、ランチ後に雨はやんでいた。

乞田川(こったがわ)沿いを歩き、貝取神社に着く。貝が取れたかと思ったが違い多摩ニュータウンの造成により三社が合祀された神社である。

スタジオジブリの描いた1994年7月公開の「平成狸合戦ぽんぽこ」で多摩丘陵の開発の意味を問う名作である。皆さん口々に「こんな山道ばかりでは生活がたいへん、西東京は良い」と確かに平坦なところが無く、常に坂、坂の連続である。これから50年後に残る街なのだろうか？

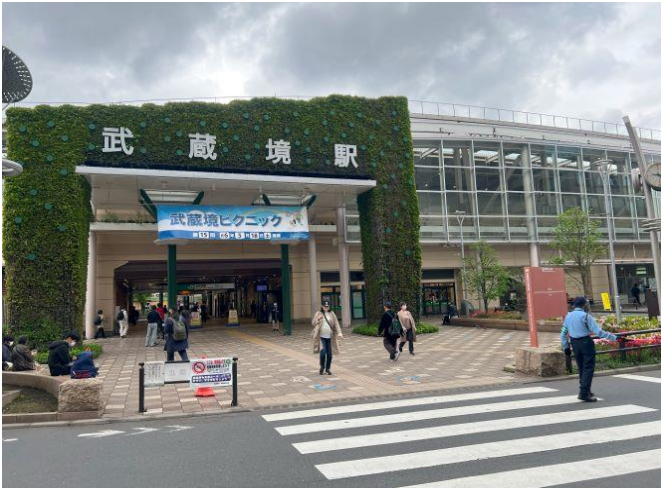
坂に疲れ、お昼の油に疲れたので公園で一休み。そこから恵泉女子大学の門前で記念写真を撮る。ここから旧鎌倉街道の幅一間(約1.8m)ほどの古道に入る。昔は武者が「いざ鎌倉へ」と行列を成して歩いた切通しである。小鳥たちが春の繁殖期に入り、うるさいほどの鳴き声のなか、鶯の声がやけに響き渡り、我らの足取りも軽く散策の会の本領の時間でした。

古道を抜け、小野路に出る。江戸時代に盛んになり落語にも謡われた「大山詣り」の通り非常な人気となった大山への宿場町として栄えた街並みが今日に残る。皆さん里山交流館でコーヒーなどをいただき、隣の小野小町とも関係があると言われる学問の神様小野神社にお参りした。

そこからバスに乗り、多摩センター駅へ、待ちに待った「反省会」の場所は、雨が降る心配から田無駅と決まり、志賀さんご推薦のお蕎麦屋さん「光盛庵」で上品な美味しさのあるおつまみと美味しいお酒を堪能しました。

飲み、語らい、食べた時間に雨が降り、結局、終日に渡り雨に打たれることはなかった散策の会でした。(小島さんはじめ、皆さまの日頃の行いの良さのお陰でしょう。ちょっとしたお湿りは、やはりだれかそうではない方がいらっしゃるのを神様はご存じなのでしょう。私??)

【写真報告書】



武蔵境駅は 見違えるほど緑豊かな駅舎と駅前広場に変身していた 壁面緑化が立教大学を思わせる



中河原駅前でミーティング後出発



舞い上がるシロサギのつがいの姿が川面に映る(風が無い朝に多いのですがラッキー)



多摩川は水が少なかった



【関戸古戦場跡】



【霞ノ関南木戸柵跡】



東京都指定史跡
 霞ノ関南木戸柵跡
 鎌倉時代の建暦三年（一一一三）に鎌倉街道に設けられた木柵の関で、街道沿いに設置された監視所の跡と考えられる。なお、中世の関所跡として既に地名にも関戸と称せられ歴史上貴重な史跡である。
 柵跡地は熊野神社境内参道に平行し、地表下三〇―四五センチのところに、およそ四五センチの間隔に丸柱（直径二五センチ）の痕跡十六があり、道路の東側にも六、七ヶ所丸柱の跡が認められる。
 平成五年三月三十一日 建設
 東京都教育委員会



【ランチから乞田川を歩く】



「洋食盛り」 869円 イカの塩辛が美味しかった

→乞田川を歩く



↑次々と溢れ出るほどのお花に出会いました

【貝取神社】





【恵泉女子大学門前で記念写真】何故か防犯カメラが赤や青に光り出した



本日まで参加の皆さま

左より牧野さん・小島さん・水野さん・中島さん・志賀さん
中村さん・原田さん・中島さんの奥様 カメラ馬道の9名参加



【鎌倉古道を歩く】



【小野路】



左上：里山交流館で一服

左下：小野神社

上：小野路の街並み

【反省会 光盛庵の風景】



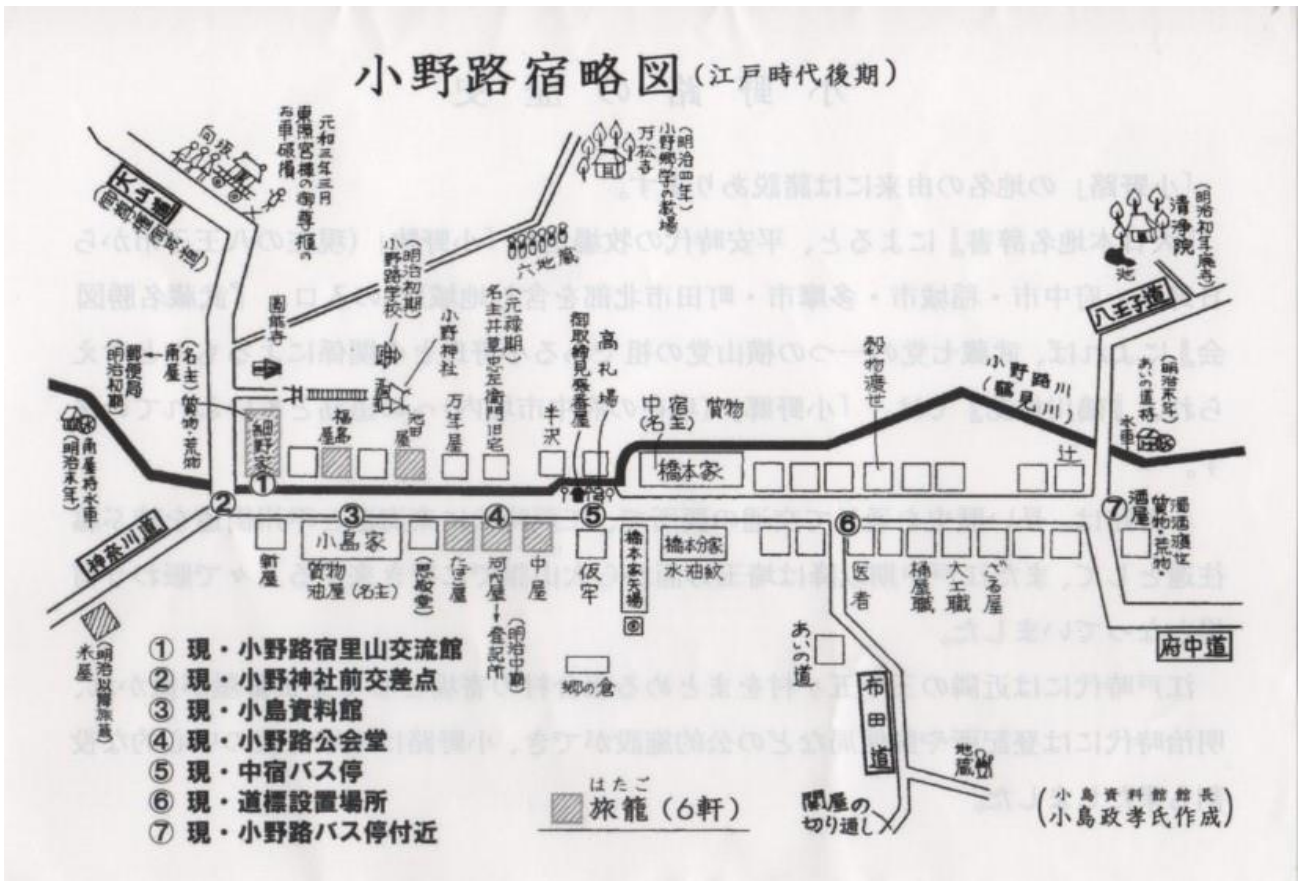
小野路の歴史

「小野路」の地名の由来には諸説あります。

『大日本地名辞書』によると、平安時代の牧場地帯「小野牧」（現在の八王子市から日野市・府中市・稲城市・多摩市・町田市北部を含む地域）への入口、『武蔵名勝図会』によれば、武蔵七党の一つの横山党の祖である小野氏との関係によるものと考えられ、『鶴川村誌』では、「小野郷」（現在の府中市域内）への道筋ともいわれています。

小野路は、長い歴史を通じて交通の要所で、江戸時代に東海道と甲州街道を結ぶ脇往還として、また江戸中期以降は埼玉方面から大山詣でに行き来する人々で賑わう宿場となっていました。

江戸時代には近隣の三十五ヶ村をまとめる組合村の寄場として見張番屋が置かれ、明治時代には登記所や郵便局などの公的施設ができ、小野路は地域行政の中心的な役割も果たしました。



【俳句編】

志賀さんが詠まれた句

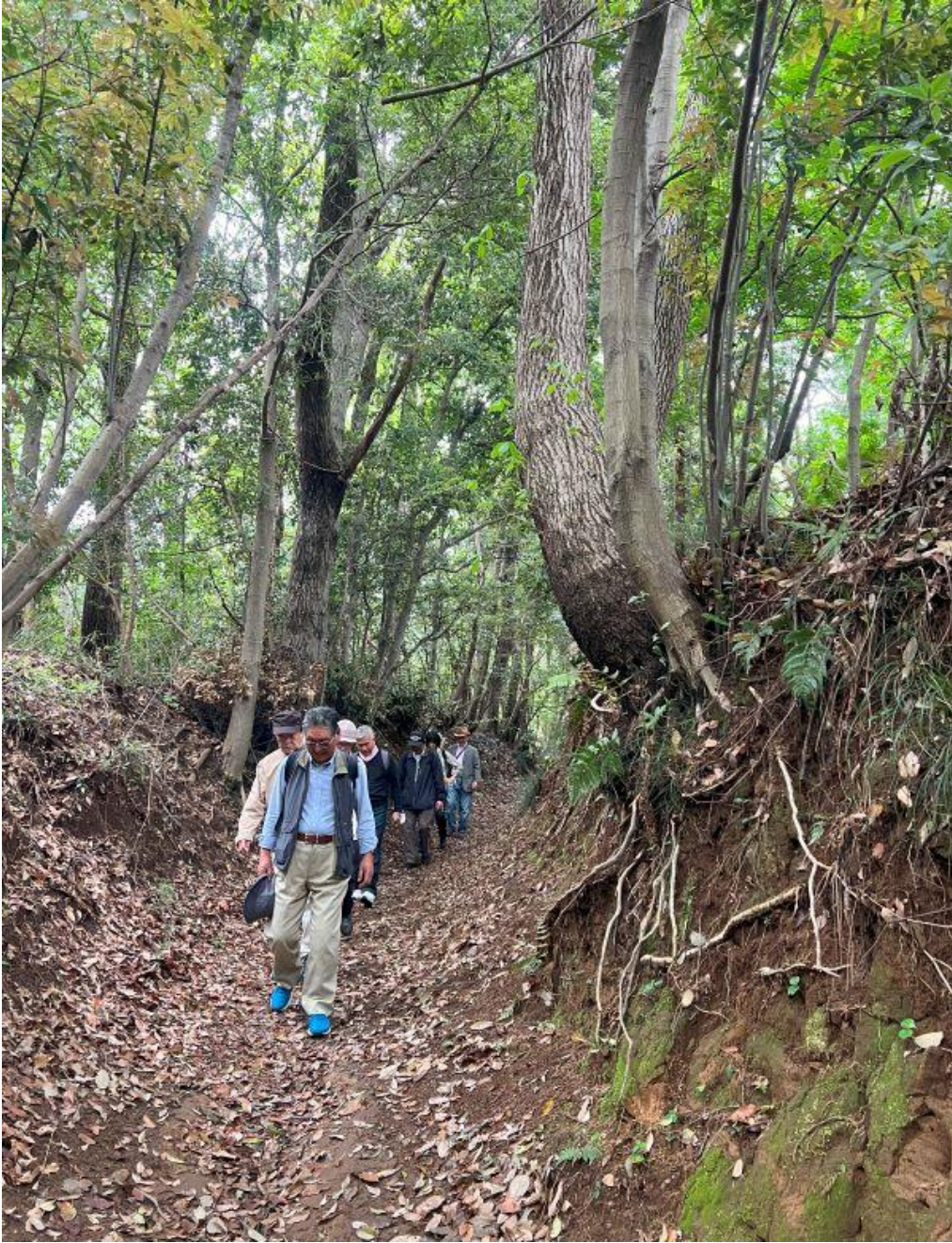
山ツツジ阪東武者の古戦場

山鶯鳴くや関戸の切通

桜薬(さくらしべ)降る石階の天神社

※天神社は、小野篁の小野神社





懐かしいオオテマリが優しく咲く

轉
（さえずり）と落ち葉の音や切り通し



花過ぎしベンチに占める逍遥者

* 逍遥（しょうよう）は 散策の別の呼び名です

鶯や鎌倉古道に冴えわたり

【編集後記】

会の冒頭ある方から「あまり肩を張らず、写真や文字を少なくしてやらないと長続きしないよ」とアドバイスを受けた。

趣味が写真とは言え、確かに多すぎる感はあります。ご参加できなかった方々に出来るかぎりの臨場感をお伝えしたいとの気持ちからです。とは言っても限界はあるのですが・・・

そして何よりも多かったのは、新入会員の田籠尚子さんのことです。いろんな人から質問がありとは言っても私もお会いしたことがありません。

できましたらいつの日か土日で開催し、皆さんにお披露目をお願いしたいものです。

皆さま またお会いしましょう！